

会員だより

高齢者住宅に入居して

2年経ちました!!

高齢者住宅に入居してから丸2年になりました。今までのこの施設のことを良いところばかり宣伝してまるで天国にいるような気分でしたが、本当に満足して、いいと思っ

ていますが、実はすべてが満足というわけではありません。将来このような施設を利用しようかと思っ

ので、私がこの2年の間に体験したことを、少し書いてみたいと思います。

まず時間にしばられるという事です。決められた時間に食堂へ行かねばなりません。ちよつと居眠りして目覚めると「あつ食事の時間？」と思わずドキッとします。真夜中にサツカーの試合があつて見たいと思つても翌朝の食事に間に合つよう

に起きられるかと心配です。前もつて欠食の連絡をしておけばいいのですが、連絡の期限があります。人間の自由の中で管理さ

れない自由があると思いが、ここに入居するということは管理して頂くためでもあります。矛盾しては、こんな人が我慢できないというほど強いこだわりは、合うわけがありません。私

次に入居する前から案じ

この2年間、入居者の方々を見ていて思うのは、ご夫婦

11月文楽公演を観劇して

11月25日「11月文楽公演」の最終日、「嶋山姫捨松」と「女殺油地獄」近松門左衛門作の人形浄瑠璃を観劇しました。

文楽は、大阪で生まれ大阪の庶民に育まれてきた「人形浄瑠璃文楽」で2003年にはユネスコの「世界無形遺産」にも登録され、世界中からも注目されています。

「文楽」は、耳で聞く語り物音楽の「浄瑠璃」と視覚に訴える「人形」という歴史的には全く別々に発達してきたものが、十六世紀末に結びついて成立した芸能です。

文楽の上演は、物語を語る「太夫」と三味線を弾く「三味線弾き」とが浄瑠璃（義太夫節）を演奏します。

太夫が語る浄瑠璃の言葉は、登場人物のセリフだけでなく、その心理や情景までも語り方や声の音色など全てを変え太夫一人で誰が誰に何をどのような気持ちで言っているのか、その場の情景はどうなっているのかが、観客が目をつぶっていても分かるように語られます。

文楽の人形は、三人で一体の人形を操る「三人遣い」の形を取っています。

一人で一体の人形を遣うのは自分の意のままに動かすことができますが、三人で一体の人形を操るので大変です。文楽の人形遣いの修業では、「人形を遣う」という基本的な技術が毎日の舞台を通じて継承されるような実に合理的なシステムが整っているようですが、師匠のもとで技術的な事は勿論、それ以上に役に対する考え方を習うのだそうです。

そしてそこにどれだけ自分の個性を盛り込み、自分らしさを発揮できるかが、生涯のテーマとして修業されるようです。

実際の舞台に足を運んで観劇すると文楽の素晴らしさを体感できます。

記・写真：大岡成一



大阪国立文楽劇場

文楽人形衣装の美

文楽人形の顔

で入居されていて、お互いに助け合いながら生活しておられるのは、いいなあという事です。私には叶わぬことですが。記・写真：牧戸富美子

日本の秋といえは...



テレビ番組のように、外国人に「You 何しに日本へ？」と問えば紅葉の美しさを求めてきたと答える人が多いと思う。私達は当たり前のようだが、秋の美しさの中で生活できるのは本当に幸せを感じる。この景色が古来より文学・建築・絵画などに影響したことは計り知れない。何度訪ねても日本の良さを感じさせてくれる石山寺と三井寺に行つてみた。11月12日、新聞ではモミジマーク一つで紅葉には少し早かったが、歴史にまつわる建物の重厚さは見事だし、観光客が多くなかったのがさらに印象を良くした。まずJR石山駅から京阪バスに乗って石山寺に着き、運慶・湛慶の作と言われる仁王像の立つ東大門をくぐる。境内を少し行くと石山寺の由来にもなっている「硯灰石（けいかいせき）」が地上に露出した奇岩がある。穴をくぐると願い事が叶うというパワースポットである。勿論私もくぐって願い事をした。願いは多すぎたかな...



石山寺東大門



ご夫婦で入居、お互い助け合いし生活

記・写真：上村サト子

※詳細はHPをご覧ください。